

## 令和5年度生駒市公益活動アドバイザー会議(第1回)

開催日時 令和5年5月22日(月) 午後1時30分から

開催場所 生駒市役所4階401・402会議室

出席者

(参加者)佐藤由美氏、谷野芳枝氏、領家誠氏

(事務局)地域コミュニティ推進課長梅谷、市民活動推進センター所長綾野、市民活動推進センター係長佃、市民活動推進センター係員西田

### 案件

#### 第1号議案 令和5年度 生駒市地域・社会活動創出支援事業の申請事業に対する助言

(事務局)今年度は、社会課題解決コースへの申請が新規3件、継続1件の計4件、拠点型活動支援コースへの申請が2件。合計6団体から申請をいただいている。団体への助言や意見を伺いたい。

#### 申請者から事業の説明(ikoma ローカルフォトアカデミー)

##### 参加者からの質問

(参加者)事業計画書の事業概要に「生駒の暮らしを全国的にPRし、その良さを知らせてもらうきっかけ作りを行う」とあるが、どこをアピールしたいと思っているか。

(申請者)地域の文化に関わるところをアピールしたい。コロナ禍で、子どもたちが参加できるお祭りや行事が中止されていたが、昨年ぐらいから復活し始め、外に出たいと思う人も増えている。お祭りや宝山寺の青年会も活動されているので、最初はそのような地域行事にスポットライトをあてたい。

(参加者)収支予算書にある外部講師の依頼収入は確定しているか。

(申請者)外部講師はこれから交渉していく予定。昨年、外部講師を依頼した額を参考に、おおよその金額で設定している。

(参加者)フォトブックは販売するのか。

(申請者)販売したいと思っているが、作成すると在庫を抱え、販売できなければ赤字になる。無償で配布すると全額負担になるため、収支に危機感がある。

(参加者)収益化を図ろうと思うと、授業料としてお金をとり、アウトプットとして卒業時にフォトブックを作るというのはどうか。ポスターは一過性のように感じる。協賛が集まるかどうか分からないが、フォトブックに協賛をつけたほうがずっと残すことができる。せっかくアカデミーという形で立ち上げるのであれば、授業料とフォトブックの制作費をとって、プラスで販売するのはどうか。昨年のイベント参加者の36人もフォトブック作成に携われば、何期生、何期生という形として残せる。プログラム自体を有償化にしていけば、上手く進めていけるのではないか。アカデミーとなれば、教える部

分でお金をとらないといけない。発信したいという気持ちも分かるので、参加者は卒業制作としてフォトブックを作成してみるということも1つの考え方。

(参加者) 事業期間中のスケジュールについて、6月から9月までの会員を対象としたスキルアップ講座は、スタッフの研修になるのか。

(申請者) スタッフが中心となるが、チームメンバーで日程を決めた後、公募をかける。

(参加者) 研修では受講料はとらないのか。

(申請者) 受講料はとる予定。

(参加者) アカデミー化するのは、まち歩き+撮影イベントの部分か。

(申請者) アカデミー化するのは、コアメンバーの勉強会部分だが、オープンな状態にする。

(参加者) 講座は9月に終わるのではなく、継続的に実施するのか。

(申請者) アカデミーとして継続的に実施し、1年の終わりにアウトプットする予定。例えば、自分が1年間撮った写真の中から、ベスト3を選んでもらう。

(参加者) その他収入として計上されている175,000円は、自分たちが外部に行った講師としての謝礼分で、150,000円はイベント参加費としての収入ということか。

(申請者) そのとおり。

(参加者) 講座はアカデミーとしての内容で、イベントはまち歩き+撮影イベントということか。

(申請者) そのとおり。去年は、36人に参加してもらえたが、有料にした場合参加者は減ると思う。

(参加者) 試しに有料で実施するのも良いと思う。

(参加者) ポスターを作る際の印刷費は計上されているのか。自分たちで印刷するイメージで、消耗品のインクと用紙を120,000円計上しているのか。

(申請者) 備品として、A2サイズまで印刷できるプリンター購入を考えている。昨年ぐらいに販売された製品でインク消費量も多いので、いろいろな人から情報集めてからの購入を検討中。ただ、ポスター1枚を外注で印刷すると、1万円以上費用がかかるので、最終どのような方法で印刷するのも考えている。

(参加者) 今の事業計画から見ると、支出に見合う協賛金がなければ、消耗品費や備品の支出額の割合は高額となる。書籍文具についても同様。

(申請者) 外注すると、備品と消耗品を合わせた同額程度の費用がかかる。

(参加者) フォトブックだと、ポスターよりも小さいので印刷費も少し抑えられそうだが。

(申請者) 外注するか自分で印刷するかを天秤にかけながら、考えていきたい。他市は、フォトブックを作成しているが、自分たちの予算でまかないきれないので、市の広報課が印刷費を出している。

(参加者) そのあたりは会費の設定に合わせていく必要がある。高い会費を取るのであれば、きちんとした印刷物を渡す必要があると思うが、無料で実施する場合はデジタルデータとして配る方法もある。

(参加者) ローカルフォトのクオリティとしては、きちんとしなければいけないと思うが、デザイ

ンにこだわらなければ、費用をそれほどかけずに作成もできると思う。

(申請者)クオリティについては、あまりこだわらず、こういう活動をして、こういう写真を撮りましたよ、ということを知ってもらうことが最優先だと思う。

(参加者)初心者が触れるということが1番大事だと思う。そうであれば、出来上がりはそこまで完璧なものでなくても良い。むしろプロセスが大事で、活動の成果としては、来年に向けて仲間が増えていくことのほうが、この活動の趣旨には合っていると思う。

(申請者)今までは、撮ってもらう側のことを考えていたので、関係作りに苦労してきた。一定のクオリティを保つ必要があると考えていたが、撮影側の人数が増えていき、たくさんの人たちに写真を撮ってもらえたという喜びに繋げていきたい。

## 申請者から事業の説明(子ども向け金融教育教室「codomoney」)

### 参加者からの質問

(参加者)YouTubeというコンテンツの中で、子どもたちがリスクについて学ぶこともできるのか。

(申請者)リスクを学ぶことはできる。リスクばかりを説明したくはないが、コンテンツを使用する中でリスクは避けられない。楽しい活動の中でリスクを伝えていき、実際に体感してもらえるカリキュラムを考えている。

(参加者)例えばどんなリスクを考えているか。

(申請者)例えば、金融についてはキャッシュレスになってしまったことで使いすぎてしまうというリスク。また、融資をして返済ができない状態になると、どういうことが生じるのかの説明をしていく予定。YouTubeについては、動画に顔を出すことのリスクや、著作権と肖像権についての説明をしていく。

(参加者)仕事体験のプログラムで1番伝えたいことは何か。

(申請者)仕事体験を通して伝えたいことは、自分でお金を稼いでそのお金を使う楽しさ。また、仕事とは実際どういうことをするのかということ、子どもたちに実感してほしい。

(参加者)活動後に、レポートやアンケートを記入してもらっているのか。

(申請者)昨年のイベントでアンケートをとった際には、もらった給料の一部をクリスマスマーケットで使い、残りはずっと宝物にするという感想や、現金に対しての考え方が変わったという意見などもあり、子どもたちからの反応も見ることができた。

(参加者)昨年から活動を活発にし、今回の申請内容もステップアップされていて良い計画だと思った。コンテンツが1つずつ出来てきている。ただ、料金設定について、高額な講座は人数が少なく見積もられているが、23,000円や18,000円という金額設定はどうなのか。YouTuber体験は10,000円なので、価格設定の根拠や見込みはあるか。

(申請者)YouTuber体験は3日間で10,000円なので、1日あたり3,500円程度。東京でYouTuber体験をしている業者がいるが、1日で8,000円程度の大きな額をとら

れている。計画している子ども向けワークショップの参加費は、1日2,500円から3,000円程度のもが多く、それに動画編集というスキルを足して、1日3,500円程度の金額設定にしている。1日あたり3,000円程度だと保護者の負担も少ないと思っている。

(参加者)小学生のなりたい職業の上位に、数年YouTuberがあがっていた。

(申請者)活動をとおして参加者の保護者と話す機会も増えたので、いろいろ話を聞いていると、親の言うことよりYouTuberの言うことを聞く、ということもあるとのこと。YouTuberは自分たちで映像を作っているのだから、言っていることが全て正しい情報とは限らない。メディアのニュースでも新聞でも、人が作っている以上、所感は入ってしまう。知識を持って自分で選択していくことが、メディアリテラシーの一つであるということ伝えていきたい。

(参加者)たしかに、案件動画とかも多い。

(申請者)YouTubeの登録再生回数に注目する人が多いが、案件動画が含まれていることもある。1日目に、YouTuberのお仕事は何かという講座をするが、YouTuberとしてのいろいろな仕事を子どもたちと解剖していく。疑った目も持てるようにしていきたいと思う。

(参加者)昨年度から比べるとメニューも増えている。去年はクリスマスイベントがメインだったが、今年は夏にもイベントを実施するというので、非常に意欲的に進められている。いろいろな団体ともつながりができているということなので、将来的に1つの事業として独立できるような形だと思った。講座は各回完結制で、次の講座に参加すると割引がされるという制度でなく、それぞれで募集をするような形か。

(申請者)割引の制度はないが、過去の参加者には毎回募集をかけている。その中から、リピーターとして参加される人もいる。割引をして戻って来てもらう形ではないが、もう1回参加してみたいなという、ステップアップできる仕組みにすることが1番いいと思う。保護者向けの認定講師養成の話もしていたが、講師が働ける場所作りも必要だと思う。今は、子どもたちの母数を増やしていきたい。先生が生駒市でたくさんできれば、その先生にまた子どもたちが増え、学ぶ場がどんどん増えていくといいと思う。

(参加者)その際に、講座を6人でおこなうリスクはあるか。働く側に立てば、塾の先生という選択肢もある。

(申請者)認定講師がもっと収入を増やしていきたいと思った場合は、例えば月4回の講座を別の週に増やすことや、土日開催で増やすこともできると思う。現時点では、月1回が現実的なので、今後は認定講師も事業も増やしていきたい。

(参加者)ビジネスモデルになればいいが、逆に需要と供給の関係からすると、子どもたちがそれを学びたいと思うかどうか、保護者が学ばせたいと思うかどうか。どちらも底上げしていかないといけないと思う。昨年度実施されたクリスマスマーケットみ

たいなものはアピール力があるので、外向けに子どもたちが頑張っている姿を積極的に広報すると良い。

## 申請者から事業の説明（発達の偏りのある児童生徒の余暇支援事業）

### 参加者からの質問

（参加者）4つのクラブということだが、年齢差があっても支障はないのか。

（申請者）年齢差があっても大丈夫。小学1年生から高校1年生まで一緒でも、違和感なく活動している。

（参加者）スタッフが専業ではないことで、事務の負担がかなり大きいと思う。NPO法人で活動されているので、いろいろな書類を作らなければならないし決算も大変。広報に関しても、事務を担ってくれる人がいるのといないのでは、今後の法人としての発展も変わらと思う。そのあたりの計画はあるか。

（申請者）事業報告書や書類関係は、ほとんど私が作成しているが、事務員1名が、書類提出などの部分を請け負ってくれている。専任として月給で雇うことは、現状難しい。

（参加者）将来的にはそういうことも考えているか。

（申請者）そこまでの展望は考えていない。

（参加者）基本的に昨年度の取り組みを継続するということが、経費の部分で何か新たに見込んだものはあるか。

（申請者）昨年度は物品購入に大部分お金を使った。今年度はボランティアの学生に、交通費を含めた人件費を支払っていききたい。

（参加者）3年目以降、補助金がなくなって支出はできるか。

（申請者）支出できると思う。今年度も支出できる金額として計上している。

（参加者）規模拡大について、場所も含めて今後どうするかということ。需要はありそうだが、事業を増やすと人手がまわらないというような感じか。

（申請者）そのとおり。その部分が1番のジレンマ。

（参加者）団体としては申請事業以外の活動もある中で、事業キャパについて適正と思うか。

（申請者）土日に実施しているので、スタッフは休みを返上して活動している。クラブ数が増えると、その分日曜日が埋まるので、どこまで増やせるかということと、どこまで手伝える人がいるかとかいう物理的な問題。市民活動推進センターも借りることはできるが、参加している子どもたちにとっては今の活動場所に愛着がある。そうになると、どちらのニーズを優先するかが難しい。

（参加者）今後、事業を継続していく上でも、広報や営業の部分を充実させ、何か新しいことを加えてもらいたい。生駒市内で、連携できる団体があると思うので、自前が難しい場合は上手く連携をしてほしい。PRをお願いするとか、活動時に場所を使わせてもらうとか、そのような面で地域と連携していくと、何か可能性が広がると思う。専門職以外でもNPOの趣旨に賛同してくれる人がいて、何か手伝ってくれるかもし

れない。そのような可能性を探ってほしい。

## 申請者から事業の説明(ボードゲームを通じた地域の居場所とつながりづくり)

### 参加者からの質問

(参加者) ボードゲームの効果が実証されているという説明があったが、具体的に教えてほしい。

(申請者) 放課後等デイサービスは中高生を対象に、社会に出る準備としていろいろなプログラムを実施している。一昨年に雇用をした人の趣味がボードゲームで、子どもたちの成長に使えるのではないかと提案してもらったことをきっかけに導入した。子どもたちはすごく楽しんでいて、人前で話すのが苦手な子どもが、ゲームマスターとしてみんなの前で司会をしたり、ゲームを通じていろいろな言葉を覚えたり、時間を守るといった行動の変化があった。

(参加者) 予算書の収入について、利用料を10分100円として計上されているが、並列して書かれている3,000円というのは、毎月の参加と時間単位の参加を選べるということか。

(申請者) そのとおり。10分100円で、丸1日参加すると5時間で3,000円。参加時間は自分で選べる。

(参加者) 参加するにあたって事前に受付をするのか。

(申請者) 基本は申込みなしで当日に来てもらう。

(参加者) 参加者の見込みや手応えはあるか。

(申請者) 今のところは全く分からない。

(参加者) 告知は何でおこなっているのか。

(申請者) 放課後等デイサービス利用者へのレターと、福祉事業所のネットワークを通じて告知をしている。相談支援センターで障がいのある人を担当しているところにも周知している。障がいのある若者の居場所がなかったり、受け入れてもらえなかったり、という相談をよく受けるており、相談の場を作っている。また一般には SNS やホームページで告知している。

(参加者) 社会福祉法人に個別にアピールすれば良いと思う。

(参加者) スタートアップを目的としている単年度の拠点型活動支援コースに、この事業で応募された理由を教えてほしい。

(申請者) スタートアップのために、最初にいろいろ購入の費用がかかるということと、はじめての試みなので、ボードゲームのアドバイザーに入ってもらった費用がかかるため応募した。

(参加者) 上手く軌道に乗れば、最終的には新しい事業所の中に取り込んでいくという形か。

(申請者) 新しい事業所のためのスタートアップとは考えていないが、結果的にそうなれば良い。地域に開けた場所にするという趣旨で、その手段としてのボードゲームというこ

と。

(参加者) 今までの利用者とは違う人たちも受け入れて、もっと幅広い人たちが参加できるようなものにしていく。そのようなジャンルは今までなかったので、利用者負担がきちんとある中で、事業として成り立つかどうかを試してみるということか。

(申請者) そのとおり。もう一つ別の事業として、第3土曜日に物々交換ができる場を開いている。昨年から実施しているが、地域の人にたくさん来てもらえて、子どもたちの交流ができていい例がある。より深く交流できる場として、ボードゲームを活用した事業を申請させてもらった。

(参加者) 新しく拠点を作るというよりも、新しい活動を始めるとのことか。

(申請者) そのとおり。放課後等デイサービスが休みの日に、その場所を活用する。

(参加者) 場所は法人の本部の1階ということだが、そもそも何かに使われているのか。

(申請者) 月曜日から土曜日まで、放課後等デイサービスとして使用している場所を開ける。

(参加者) この事業の参加者が増えた場合は、日曜日の1回以外にも他の場所で開設するのか。

(申請者) 第4日曜日だけではなく、別の週の日曜日を増やしていく予定。

## 申請者から事業の説明(いこま山荘とともっと プロジェクト)

### 参加者からの質問

(参加者) この事業は、子どもたちにとってなかなか得ることのできない機会で、とても良い企画だと思う。活動場所は無償で提供ということだが、契約書を交わしているか。

(申請者) 契約書は交わしている。

(参加者) 申込みは、どこからおこなうのか。

(申請者) 会員は、ホームページから申し込んでもらえる。今回公募する10人は、広報に掲載してもらい生駒市民に来てもらう予定。

(参加者) 今までは、雨が降った時や夏の暑い時に活動する場がなかったということで、新たにこの場所を拠点にするということだが、今まで山の中での活動とは違うプログラムをおこなうのか。

(申請者) 山の活動を、雨の場合にこの拠点でおこなう。今までは、たけまるホールを借りたりしていたが、ホールから歩いていくことは難しい。この拠点ができると、子どもたちは泥んこ遊びも好きなので雨の日も活動ができて幅を広げられる。夏は涼しいので今までの活動場所でも大丈夫だが、冬は麓と温度差があり寒い。この拠点では、火も使えるので、みんなで味噌汁を作ったりして、新たに活動の幅を広げようと思っている。

(参加者) この拠点ができると、今まで参加できなかった人も来やすくなるのか。

(申請者) 乳幼児の親や妊婦からすると、部屋があるのとないのとでは全然違うと思う。今でも、保護者の中にはハイハイ歩きの子どもを連れてきたりもしている。部屋があり

少しくつろげるとか、子どもと休めるということは、すごく良いと思っている。

(参加者) 今回の拠点型活動支援コースは、今までになかったような拠点のスタートアップをすることを意識している。そのような側面があり、継続して活動することも考えられているか。

(申請者) 継続して活動したいと思っている。

(参加者) 現在、山のようにちえんで活動している、うり坊クラブやおひさまカフェも、この拠点での活動が追加されていく形か。

(申請者) どちらかという、つちのこクラブをバージョンアップするという形。

(参加者) 継続して、この活動場所を使わせてもらえるのか。

(申請者) 賃貸借契約で、貸主は高齢者のため、相続後に使用できないと言われると継続はできない。

(参加者) つちのこクラブの会員だけでなく、なるべくたくさんの方が利用できるようにしてほしい。

(申請者) 来年以降も継続して一般の人へも呼びかけていきたいと思う。

(参加者) 建物ができると、今まで参加が無理だと思っていた人も参加しやすくなるので、有効に活用してほしい。

## 申請者から事業の説明(生駒市南部の農地での自然農によるおとなフリースクール)

### 参加者からの質問

(参加者) 収穫物というのは、具体的にどのようなものを想定しているか。

(申請者) 旬の野菜。加工品なども作りたいと考えているので、大豆や加工用トマト、上手いけば小麦や加工できる作物もどんどん植えていきたい。

(参加者) このあたりは、鳥獣の被害はないのか。

(申請者) 自然農をはじめ14年経つが、猪がきて一夜にして野菜がダメになったという年もあった。竹のギザギザの葉っぱ側を置いておくとひっくり返されないの、いろいろと工夫している。工夫をしたことで、去年は被害が少なかった。

(参加者) 販売場所は、大体想定しているか。

(申請者) 畑仕事をして野菜を卸しているが、自然農の野菜を求めているお店も結構多い。参加者と一緒に営業活動をしていきたいと思っている。

(参加者) 今活動しているフリースクールと、別にこのフリースクール事業をおこなうということで、何か違いはあるのか。

(申請者) 今活動しているフリースクールは、中学生までの子どもが対象。これからおこなうこの事業は、高校生以上を想定している。

(参加者) カリキュラムとしては、月2回開いて農作業をおこない、販売までしてもらおうということだが、人数の規模はどの程度か。

(申請者) 1年目は3人程度で少しずつ増やす。3年目には7、8人の参加があればいいなど



いう想定。

(参加者) 自然農だと月2回の作業をする以外に、何もしなくても育つのか。

(申請者) それ以外の期間は、団体として育てることになると思う。参加者との相談にはなるが、可能であれば月3回、4回来てもらっても考えている。

(参加者) 今はその場所は農地なのか。

(申請者) 五反原の里自体は元々農地だったが、今は子どもたちの遊び場になっている。里を上がると、自分より背の高い草が生い茂っていて、段々畑になっている。そのような部分を開墾しながら畑にしていきたいと思っている。

(参加者) その場所は地権者がいて、借りるということか。

(申請者) そのとおり。このあたりは後継者がいないという人多く、草刈りしてもらえるだけでいいという地主も多い。

(参加者) 交通手段は何か。送迎などはできるのか。

(申請者) 五反原の里の前は道路なので、軽自動車だと前まで行くことができる。

(参加者) 駐車場があるわけではないのか。

(申請者) 1、2台は駐車できるが、駐車場があるわけではない。

(参加者) 参加費が500円は安く感じる。

(申請者) 大人のフリースクールなので、参加者が来やすいような金額を設定している。

(参加者) 今後継続して自立していこうということであれば、もう少し参加費は高くても良いと感じる。

(申請者) 参加費については検討したい。

(参加者) 商売にすることではないが、普段から畑を管理することは大変だと思う。習い事の月謝よりも安いので、管理することに見合う費用をもらってもいいと思う。もちろん働いていない方からすると大変だとは思いますが。

(参加者) 2年目からはスタッフが1人増える計画だが、検討している人はいるのか。

(申請者) 決まってはいるが、昨年からボランティアしてもらっている人に声をかける予定。

(参加者) 継続性の面で、段階的に充実させていくことが望ましいが、3年目、4年目の見込みはあるか。作物が売れるようになって、来てくれる人も増え、フリースクールと違う人たちも来てくれるようになるというプロジェクトになると思う。

(申請者) 参加者の中から、農作物で作った加工品を販売して自立する人が出てきてくれることを望んでいる。

(参加者) 参加者は毎年3人、4人、5人と増えていき、卒業することなく展開していくのか、一定期間で自立させて新しい人を入れていくイメージのどちらか。

(申請者) 卒業して、新しい人が入ってくるイメージ。

(参加者) そのような意味でいうと、カリキュラムとしてのコンテンツになっているということ、3年後には見せていかないといけない。この事業に入ると、どのようなことが学べて、どのように巣立っていくのかを見せていかないといけない。そのあたりは意識して

継承してほしい。

(参加者) 協働先が地元の自治会ということだが、加工する際は業者に手伝ってもらうのか。

(申請者) 事業を始めたころには台所を貸してもらう予定。加工品をお店の人と作りながら商品化していくことも並行して考えている。

(参加者) 加工品を作るとしても、いろいろな形態がある。材料だけ支給して加工をしてもらう方法や、自分で施設を持つといろいろな許可が必要。どのように販売していくかを具体的に検討してもらいたい。

## 申請団体の退出

### 【協議】

### 参加者からの意見(ローカルフォト ikoma)

(参加者) 継続性を強化するため、ポスターやフォトブックなどの成果物に、QRコードを入れ、事業者のHPとリンクさせるなど、広告収入を得るような活動まで出来ればよい。今のままだと、自己資金を出し続けることになるのではないかと。

(参加者) アカデミーにするには、受講者からお金をとることを考えたほうがよい。フォトブックについても、クリエイターに頼むのではなく、自分たちの簡単なデザインだと安く数千円で作成ができる。資金を貯めて何年かに1度きちんとしたものを出すことにすれば、継続できると思う。スポンサーが見つかるかどうか心配なところ。大判プリンターの費用対効果を再検討。

(参加者) 2年目となるので経営的な観点を強化すべき。事業目的として「発信」を主にするのか、「アカデミー」を強化するのか、再確認が必要。

### 参加者からの意見(子ども向け金融教育教室「codomoney」)

(参加者) お金を払って参加してくれる人が、どの程度集まるのかは課題となるが、昨年度と比べてステップアップした。

(参加者) 将来の展望の部分で、事業収入がどんどん増えていくこともよく分かった。

(参加者) 3年目からは事務所も借りて事業を実施できるぐらい、本格的な予定を立てられている。金融教育は大事だと思うが、そのリスクなど内容の幅広げて、保護者にアピールをしたほうがよい。中学生になると難しい金融の勉強が始まるので、良い機会。需要があると思うので、上手くアピールしてほしい。

### 参加者からの意見(発達的偏りのある児童生徒の余暇支援事業)

(参加者) 昨年度の事業報告の際にも話をしたが、もう少し地域と連携してほしい。

(参加者) 参加人数を増やせないという話もあったが、会員を募っていないとすると、地域との連携が難しい。

(参加者) 専門職をリタイアされた人に声を掛けるのはどうか。

(参加者) こういった活動をしているので来てみませんか、といった声掛けて人を増やしていくのはどうか。

(参加者) 生駒の人を増やしていく手段は何かしらあると思う。

(参加者) 毎年同じような事業内容になることが気になる。

(参加者) 今年の意見を踏まえて、来年度の展開を何か考えてほしい。

#### **参加者からの意見(ボードゲームを通じた地域の居場所とつながりづくり)**

(参加者) 新しく開かれた場が出来てほしいという思いがあるコース。新しい場が出来たということ、活動を通して見せてほしい。いずれ違う場所で活動してもらえればよい。できるだけ新たな場になるという意識で継続的に活動してほしい。

#### **参加者からの意見(いこま山☆と motto プロジェクト)**

(参加者) 拠点コースは単年度の補助金となるが、その後のフォローアップ調査も行う。

(参加者) 定期的に報告をもらう。例えば、まちサポ拠点というようなラベリングや、ホームページのリストに掲載する代わりに、活動報告を受けるなど、公費が入った拠点ということを示す。

(参加者) 商工観光課の事業で、職住近接の関係でサテライトオフィスの場所を1,000,000円で補助した。そこには、サテライトオフィスのシールが貼られていて、地域貢献として何をしてもらっているかを毎年聞いている。

(参加者) 市民に対しては、補助したものと分かってもらうようにすること。

(参加者) 新しい拠点になるので、できるだけ広報をして、市民に分かってもらいたい。

#### **参加者からの意見(生駒市南部の農地での自然農によるおとなフリースクール)**

(参加者) 他事業とよく似ているところもあるが、大人の受け皿はあるのはよい。卒業していくことで、社会性も高い。

(参加者) 卒業生たちが自分たちで事業を始められたら1番良い。

(参加者) 野菜作りが得意な高齢者も多いので、そのような人たちに手伝ってもらって、一緒に参加してもらえるような場所になればいい。

(参加者) 自治会と連携できるということなので、そのあたりも期待している。参加者が3名以上という設定で規模感はどうか。

(参加者) 潜在対象者はいると思うが、どのようにアプローチしていくのかが分からないということ。農福連携をしている大きな農場あり、加工場があると農福連携がしやすい。

(参加者) 実現性の部分で、加工場まで作るの難しいのではないか。

(参加者) 参加費を再検討し、継続的に事業を続けられるように検討してほしい。

(事務局) 本日の意見を受けて、生駒市で審査の上、事業の採択決定をおこなう。結果については後日報告をする。採択を決定した団体に対しては、6月以降伴走支援をおこなう。中間報告については10月頃を予定している。

(参加者) 他に意見はないか。それでは各事業の審査項目に対するアドバイザーからの意見は以上とする。

(事務局) それでは、これをもって令和5年度第1回生駒市公益活動アドバイザー会議を終了する。なお、本日の資料は、個人情報等の記載があるため、持ち帰りは、お控えいただきたい。ありがとうございました。